



2017.6.23

鈴木 恵一

日本語を勉強中の渡日生徒のみなさん、意味がわからない言葉は、自分で調べたり、先生や周りの友達に質問し、言葉の意味や使い方を理解し、使える言葉の数を増やしていきましょう！

各種大会、コンクールが集中する時期ですが、大通高校の各部活動も、定通体連や高文連が主催する大会に参加し、みんな感謝の心を持ち、ひたむきに取り組んでいます。また、本校が力を入れているキャリア探究のプログラムも目白押しで、校外でも大通校生らしい学びと気づきの連続です。その報告を見たり聞いたりするたびに、私自身も感動したり、驚いたり、笑ったり、学びの連続です。今後も、いろいろなことにチャレンジするあなたを応援します！



愛でるころ

16日(金)、吹奏楽部の生徒から招待を受け、高文連の演奏会に足を運びました。演奏会は、器楽、管弦楽、吹奏楽、合唱、日本音楽の部門が設けられており、日頃の練習成果を発揮する機会であると同時に、全道・全国の演奏会へ推薦される機会となっています。本校の女子2名(4年次:有野美咲さん、3年次:加藤優美さんのデュエット)は Let It Go ~ アナと雪の女王 ~ を演奏。とても素直で澄んだ音色で、私は癒しのひとときを過ごしました。デュエットはアンサンブルの基本とはいえ、シンプルだけに誤魔化しがきかず、2人はさぞかし緊張したことでしょう。でも、多くの専門家の方々からとてもよい講評をいただき、私も嬉しかったです。

いただいたプログラムに、北海道高等学校文化連盟石狩支部音楽専門部長をされている札幌旭丘高等学校の石黒清裕校長先生の言葉が寄せられていました。心に残る内容だったので、ここにその一部を抜粋します。

芸術は人類が大切にたもってきた、人の心を揺さぶることのできる重要な活動です。絵画や彫刻、書は作品として後世に残りますが、皆さんの取り組んでいる合唱、吹奏楽、器楽、管弦楽、日本音楽は、ダンス、演劇と同じように、発表したその時、その場に居合わせた人々に共振して、より大きな感動を巻き起こす芸術だと思います。演奏する者の感情が、音によって聴衆の心と響きあい、それによって、演者と聴衆の双方に、心の高揚感や癒し、あるいは元気が湧き起こったりするからです。



さて、あなたは生活のなかで、音楽をはじめとする芸術にどのように触れているでしょうか。小中学校でも高校でも、音楽・美術・書道を学ぶことが義務づけられています。そこには芸術の力が人類の歴史と文化の発展を支えてきたという事実があり、それを教育の世界でも感性を磨き、創造的に表現する力や鑑賞する能力を高め、豊かな心（情操）を養ってほしいという願いが込められているのです。

芸術の効用は、いろいろなところで言われています。

多様な表現形態によって、人々の魂を揺ぶり、時として悲しみや苦しみを癒やし、勇気を与え、時として社会や人間が抱える問題（紛争、戦争、テロ、差別など）を提起し、愛と平和、人としてのあり方を探究していくのも芸術の役割です。

大げさな話と思われるかもしれませんが、あなたが日頃、触れているものにそうした要素がたくさん詰まっているということです。「文化」という広い観点でとらえると、“ことば”“ものがたり”として表現される文学もそうです。



今や諸外国では、日本のアニメ、マンガも芸術や文化として語られ、高く評価されています。

さて、あなたはどんな芸術、文化に関わっていますか？ ジャンルにこだわることなく、美しいものを美しいと感じられる「愛でる心」を持ちたいものですね。

高校ブンカ部

以前、STVより高校ブンカ部応援プロジェクトで大通高校メディア局の活動が評価され、「一眼レフカメラ & レンズ」を贈呈されましたが、フリーペーパー「ch FILES 北海道版」から取材を受け、6月20日発行No.87に記事として掲載されました。

高校の文化系の部活動(いわゆるブンカ部)は、運動部に比べると注目される機会が少なく、中には活動の維持に苦労しているところもあるのでは?そこで、北海道内のブンカ部が行っている地域に根ざした活動や、特色ある活動の維持・発展を応援するために活動に必要な備品等を贈呈しているのがこの「STV“高校ブンカ部”応援プロジェクト」。当プロジェクトで過去に応援先となったブンカ部の生徒のみなさんにお話を伺いました!

STV 応募受付中!

“高校ブンカ部”

応援プロジェクト

市立札幌大通高校 メディア局



▲ブログに投稿した情報は、学校の掲示板にも掲載されています。レイアウトも局員が考えています。



▲活動の記録を写真におさめるのも仕事のひとつです。撮影に使用しているのは寄贈された「一眼レフカメラ」。



▲メディア局のパソコンから行っているブログの更新。気になる内容はこちらをチェック! <http://odori-cc.net/>



局長・猪子 ひなのさん

副局長・松澤 天斗さん

活動内容について教えてください

猪子 ブログで学校生活や行事内容を報告したり、学校行事ではカメラマンとして写真撮影をしたり、毎週土曜日に「IRODORI〜大通つうしん〜」という生放送のラジオ番組に出演するなど、学校の広報活動を担当しています。

どうしてプロジェクトに応募しようと思ったのですか?

松澤 活動で使っていたカメラの調子が悪かったというのもあるのですが、過去のプロジェクトで選ばれた学校を調べてみるとどれも個性的な取り組みをしていて、僕たちメディア局も負けてられないな!という気持ちが大きくなって、ぜひメディア局の紹介をしたいと思ったんです。

プロジェクトに選ばれてから部活動にどのような変化がありましたか?

猪子 すごく活気づきました!メディア局にはカメラが5台あるんですけど、活動の時によく使うのはいただいたカメラで、局員からも一番人気があります(笑)。つい最近だと、見学旅行の時にそのカメラを使って写真を撮っていました。

今後挑戦してみたい取り組みはありますか?

松澤 大通高校は街の中にあるので、いただいたカメラやブログを使って地域の人たちの紹介をしたいです。そして先生方に依頼されてから動くのではなく、主体性を高めていきたいです!

猪子 ラジオで時々ゲストを呼ぶことがあるんですけど回数が少ないので、学校内外からゲストを呼ぶ機会を増やしたいです。